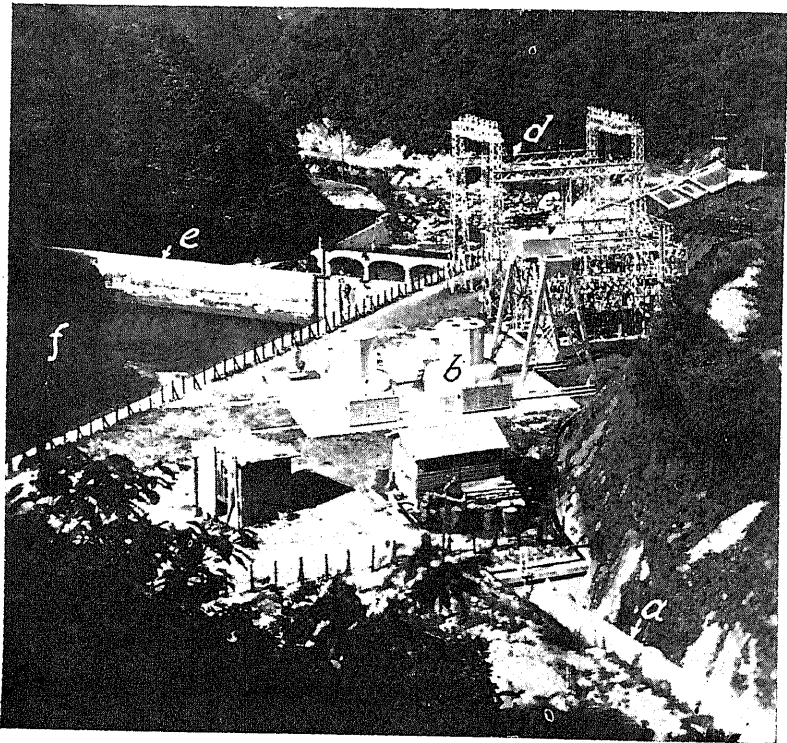


## XIV 自働發電所

一般水力發電所の運轉は、發電所に従業員を常置して之に當らせて居るが、山間僻地の小發電所又は主要發電所の近くに在る發電所では、人力を省く爲電氣的に運轉を行ふ方法を探つて居るものがある。之を自働發電所と稱する。

自働發電所の方式には全自働式と半自働式との二種類あつて、全自働式では、起動、停止、負荷の調節等一切が自働的に行はれ、半自働式では之等の全部又は一部が母發電所たる主要發電所より制御せられる。



288 圖 東邦電力會社 駿ま木ら川自働發電所

Q 最大 3.345 m<sup>3</sup>/sec 内 常時 0.557 特殊 2.783 H 193.54 m 出力 900~ kW  
5,230 kW

a 水壓管 b 發電機 c 門型移動起重機 d 屋外變電所 e 堰堤 f 逆調整池  
 説明 屋外全自働式尖頭發電所で、發電所建物が省かれた外他は一般の水力發電設備と同様である。約 6 km 離れた東多久變電所の遠方監視制御装置並に遠方測定装置に依り操作され尖頭負荷時 4 時間 5,000 kW の發電を爲す。f は調整に因る下流への水量變動の影響を除く爲に設けられた逆調整池である。